

## 会 議 録

会議の名称	令和 7 年度 第 2 回那珂川市文化芸術推進審議会		
開催日時	令和 7 年 12 月 10 日(木) 19:00～21:00	開催場所	中央公民館 講堂
出席者	1. 委員 田北委員、長津委員、簗原委員、柴田委員、鳥部委員、関岡委員、高坂委員 欠席:森委員 2. 執行機関(事務局) 鶴田社会教育課長、渡邊社会教育課文化振興担当係長、 小林社会教育課文化振興担当主事		
配布資料	【資料1】こども文化体験事業 【資料2】那珂川市文化芸術推進計画 前期実施スケジュール 【参考資料】那珂川市文化芸術推進計画 施策体系一覧		
公開区分	開示 ・ <span style="border: 1px solid black;">一部開示</span> ・ 非開示 (理由:情報公開条例第 9 条第 2 号に該当)		
議題及び審議の内容 (次第 2 まで事務局で進行) 1. あいさつ →田北会長よりあいさつ  2. 新委員紹介 →高坂委員よりあいさつ  (以下、会長が進行) 3. 報告事項 (1) 第 1 回審議会での内容について ①アンケート結果の公表について ②タブレット端末の活用について (事務局から口頭で説明) 第 1 回審議会で委員から質問があった令和 6 年度文化芸術アンケート結果については、審議会議事録とあわせて市のホームページに公開済。あわせて回答施設宛にメールや郵送等で共有済。第 1 回審議会で委員から提案があったタブレット端末の活用については、市内小中学校に配布されているタブレット端末を活用して、子どもたち自身が文化芸術に関わる情報に直接アクセスできる仕組みを構築できないか所管課含め検討中。			

(2) こども文化体験事業について

【資料 1】

(事務局から資料 1 について説明)

(質疑応答・意見交換)

[委 員]: 事業の広報手段と対象の年齢層について知りたい。

[事務局]: 主な参加対象は小学 5 年生から高校生のため、保護者に向けて、市広報紙への掲載や市公式 LINE での通知、市内小中学校に対してチラシ配布を実施。本事業のチラシに加え、竹の里フェスタや市民文化祭など関連するイベントのチラシもあわせて配布済。

[委 員]: 1 年を通じて活動するイメージか。

[事務局]: 4 回の連続体験事業の一環した名称として設定しており、次年度以降も別の体験企画を提案予定。

[委 員]: 参加者は全回共通ではないということか。

[事務局]: お見込みの通り。複数回参加も 1 回のみの参加もある。

[委 員]: 各回で内容が全く異なるが、どのような経緯でこの 4 つのプロジェクトが行われたのか。

[事務局]: 今年度は試行実施のため、通年で自分たちが行っている事業に参加してもらい、子ども向けの部分を一緒に体験してもらおうという内容で検討。竹の里フェスタ、市民文化祭、文化財の黎明展は、毎年実施しており、それを主軸に考えたため、各回で内容が異なる部分がある。ミリカ謎ときツアーは、ミリカの会場を借りて、新規で企画。全体の趣旨としては、既に行われている市の文化芸術イベントを知ってもらい、関わってもらおう目的がある。次年度については、今年度実施のアンケートで要望が多かったものや、今年度好評だったものについて継続して実施する等、内容を検討。

[委 員]: 広報の話も出たが、このナカカル部というチラシがなくても、成立した事業だったのではないか。ナカカル部として、通しでの参加を見越すのであれば、曜日や時間をそろえた方が良い。同様の子ども向けの事業として、かなり近いものをミリカ部活があるので、その前例を見つつ、通しで参加する人を育てたいのか、あるいは、この枠組みは残して市が関わるイベントにあわせてやるのであれば、個別の広報をもう少し充実する方法を考えるべき。現状はややどっちつかずな印象。

[委 員]: ナカカル部の中で統一的な体験ができたほうが子どもも楽しいと思う。例えば、1 回目が謎ときツアーであれば、2 回目、3 回目のイベントも謎ときツアー的な観点をに入れて、竹の謎は何だろうとか、文化財の謎は何だろうという切り口で統一されていると面白い。

[委 員]: ミリカ部活は、通しでファシリテーターを 1 人雇って実施しているのでは。

[委 員]: ミリカ部活は、居場所的に開いていて、同じ部活の先生・アーティスト

がいて、居場所作りを通年で行っているので、駒立てが違うのではと感じる。今のご指摘に沿うのであれば、例えば伝統文化だけを学ぶシリーズとして、茶道や華道の体験があってもいいということではないか。一貫性というか。

[委員]: その通り。部活としての一貫性を保つのか、単発の様々な講座があってもどこでも体験できるということなのか。加えて、今後も事務局職員が進行するのかということも気になる。地元の文化協会やアーティストなど、進行ができる人に入っていただくのも、一貫性を保つのであれば有効。

[事務局]: そこまで部活のイメージにこだわってはならず、親しみやすい名前として部活のような名称をつけている。できれば1回目から4回目まで全回参加してもらいたい、それは難しいので、1回だけでも参加してもらい、文化活動に子どもが触れる機会を提供したいというのが今回の趣旨。ご意見も参考にして、今後も磨き上げていきたい。

[会長]: 磨き上げるという部分が大切。ナカカル部として実施することで、そこで子どもたちが出会い、学びあいが生じ、部活のようにコミュニティーが育まれていく。そのストーリーをもとに磨き上げていくことで、より文化体験として充実していくのでは。何かしらのコンセプトのもとで、部活がいいと思って実施したのであれば、その形でブラッシュアップしていくべき。ナカカル部という名前が親しみがあるという観点も大事だが、そもそもなぜ今、那珂川にそういった切り口の取組が必要なのか、子どもたちに向けて、なぜ、そういうものがあればいいのかということ、しっかり練ってほしい。その際、例えば企画するのが現時点で事務局職員であれば、他の人たちと一緒に考えてほしい。子どもたちが文化体験をするのであればどういう仕組みがいいのかということ、周囲の文化芸術に関わる人たちと話をすることで、その人たちが、それぞれ2回目は私たちが、3回目は私たちがといった感じで、そこでまたコミュニティーが広がっていく。今は既存で取り組まれていることをパッケージ化したようなイメージではあるが、もう少し丁寧に企画を練っていけるといい。広報期間が短く、参加者が少ないということであれば、今取り組んでいるミリカ部活の課外活動といった形で取り組むことで、既につながっているネットワークを生かしながら、ミリカだけではない、その地域の広がり文化体験として実施していくというストーリーも描けるかもしれない。それがミリカ、市全体、双方にとって有意義なことになると思う。今回、実施してみて、事業自体から学べたことと、アンケートの結果を生かしながら、ブラッシュアップすべき。最後のふりかえりというのはどのようなイメージか。

[事務局]: ふりかえりは、全回体験済の子もいれば、そうではない子もいるので、1回目からの内容を写真も交えて共有し、それを踏まえた上で、次年度やりたいことを一緒に話し合うイメージ。4回目について、クリスマス

のケーキづくりはミリカフェに土台をつくってもらったり、クリスマスのオーナメント作りは図書館の職員に講師として教えてもらったり、ミリカと連携して実施予定。

[委員]: 子ども向けではあるかもしれないが、運営側の人たちも、事業を実施することで、企画する人材が育つと思っていて、それこそミリカローデンで実施され、長津委員も関わっているミリカルリーダーの方々のステップアップの場にも使えるのでは。今回事務局職員が企画されたということだが、そういった人脈や那珂川で何かしたいと思っている人の機会としても活用すれば、相乗効果がある。子どもたちの鑑賞の目を育てたり、芸術文化に親しむ機会を作ったり、思考を開いていくという目的は分かるが、企画者側も一緒に育っていくといい。

[事務局]: ミリカルリーダーを巻き込むのは、いいアイデアだと思うので検討する。

[委員]: 芸術文化に携わっている人にお金を回していくというのも行政にしかできないことなので、ちょっとした講師料を、頑張ろうとしている人たちに渡してあげられるといい。

[委員]: この資料に載っているものは、チラシとして学校に配られたものか？

[事務局]: その通り。

[委員]: こども文化体験事業の目的が、子どもたちが一緒に楽しむ、一緒に企画運営する仕組みづくりということであれば、こういったチラシひとつとっても、もう少し子ども向けに作るべき。対象が5年生から高校生と幅広いので、難しいとは思いますが、ぱっと見て何ができるのか、子どもが分かりやすい記述にするべき。子どもたちは上から読んでいくと思うので、上のほうは子ども向けにして、下のほうに保護者向けの分かりやすい注意事項を載せるなど工夫するべき。子どもたちはチラシを目にしても、基本的にはスルーなので、写真などを増やし、子ども向けを意識してほしい。事業として継続実施していけたらいいと思うので、女子商業の高校生だけではなく、参加した小学生が、次年度は運営側に携われるといい。子どもたちは、例えばキッズニアのように、働く側もしてみたいという子たちもいるので、ただ体験するだけではなくて、運営部分でも子どもたちを育てられるといい。

[事務局]: 運営に携わってもらうのは狙いとしてあるので、今回参加してもらった子をそのまま引き込んで、次年度も参加してもらうなど含め検討したい。

#### 4. 審議事項

##### (1) 5年間のロードマップについて

##### 【資料2】【参考資料】

(事務局から事業No.4、5、8、9、13、14、15、16、21、22、23、24について説明)

(質疑応答・意見交換)

[委 員]: 資料の色分けの意味を知りたいのと、目指すゴール像として、令和 10 年度が、継続実施で埋まるような状態を目指しているのか知りたい。

[事務局]: 黄色で準備・検討をして、赤・オレンジで実施というイメージ。令和 10 年度から実施するものもあるので、10 年度には全て実施しているというのが、ひとまずのゴール。文化芸術推進計画が 10 年間の計画なので、10 年度までで一旦実施をして、その後の 5 年間で改善やブラッシュアップをする計画。

[委 員]: 1 番左の①②③の色分けの意味は。

[委 員]: 前年度の審議会資料の中の色分けと対応しているため、この資料の中だけで意味があるわけではない。

[委 員]: 高齢者向けのイベントとは、スポーツに関するイベントをするのか。

[事務局]: e スポーツ、具体的に言うと、テレビゲームを使った体験的なことを考えている。e スポーツというところでメディア芸術に位置づけられているところもあるので、そのような視点も踏まえ実施予定。

[委 員]: 既に実施している企画を芸術文化に寄せてやるイメージか。

[事務局]: 今年度、アウトリーチの形では初めて実施するイベントで、文化芸術の要素も入れながら実施したいという意味合い。

[委 員]: 補足すると、ミリカで令和 5 年度から e スポーツ体験フェスタといって、インリーチのイベントを実施しており、体を動かすことで反射神経を鍛える、つまり、e スポーツ×福祉、e スポーツ×高齢者という取組をやっているが、インリーチだと来られる人が限られるので、アウトリーチで実施しようというもの。福祉センターに出向いて、e スポーツで健康増進や発想を鍛える内容で 12 月に実施予定。

[委 員]: 文化芸術推進計画上は、実施項目が 24 個書いてあるが、全てを別の事業として、事務局 3 人で実施するのは、すごく大変だと思う。情報発信に関しての項目が 5 個くらいあり、今見る限り、1 番、10 番、14 番、15 番、21 番が情報発信の内容なので、何かしらまとめて実施できればいい。情報発信といっても、内実は文化協会の発信をどうするかとか、市内の文化芸術団体等に関する情報の収集発信をどうするか、地域の文化芸術に関する情報収集や事業の効果的な情報集約発信など、計画段階では、24 個そのまま実施する想定で書かれていなかったような記憶もある。細かく分けるよりは、これやることでこれを行っていることにもなるというふうにやっていかないと、この先もたないのでは。アウトリーチや子どもに関わる項目が多い計画だと思うが、その辺りも似たような取組・事業があるので、ある程度相乗りするような形で事業を計画して、より少ない事業数で効果的に実施することを考えたほうがいい。資料中に市の事業ではないと思われるミリカルリーダーが掲載されているが、どのような位置づけでここに掲載されているのか。

[委 員]: おそらく市内でこういう動きがあったということで掲載しているのだ

と理解している。

[事務局]：お見込みのとおり。

[委員]：同様の意見にはなるが、計画策定中に検討課題が多いなかで、このような案があるということで上がった 24 個が計画に盛り込まれているが、あくまで案であったと思う。それが実施計画になってしまっていて、この 24 項目が事務局の活動を縛っていないかということが気になっている。同じような分野はまとめて検討する等、少し分類を大まかにし、発想を広げたほうが、可能性が広がっていくのではないかな。

[事務局]：ご提案のとおり可能な限り関連づけて実施していきたい。

[委員]：文化協会 Instagram の登録者数は。更新は市で行っているのか。

[事務局]：フォロワーは現時点で 85 人。現状は市職員が更新しているが、今後は文化協会の事務員に更新してもらえるよう指導する等、サポートしていく。

[会長]：前回の審議会資料では 24 項目全てを出してはいなかったか。

[事務局]：令和 7・8 年度事業のみ記載していた。

[会長]：令和 7・8 年度事業について、昨年度の審議会から計画変更しているものがあるか。例えば、昨年度第 1 回審議会資料の 15 番で、公共施設サークルの集約・リスト化という記載があるが、今回の資料にはない。

[事務局]：令和 6 年度第 2 回審議会で大幅に修正が入っている。令和 6 年度第 1 回時点と今の時点だけを比べると大きく変わってる部分があり、資料の形式が似通っているため変更箇所が目立つが、令和 6 年度第 2 回審議会で変更をお伝え済み。

[会長]：了承。前回の審議会事務局から回答があったアンケートに関する個別のヒアリングについては、次回の審議会で報告予定か。

[事務局]：その予定。

[会長]：推進計画を作ったので、今後はさらに庁内における連携強化を図り、予算化すべきところは予算化していただくことが大事。その際、予め評価目標を設定しないと、ただ予算を消化しているだけのようにも映ってしまう。特に次年度の取組みについては予め評価目標設定しておく必要がある。それを全て事務局に押しつけるわけではなく、一緒に考えていければ。

[事務局]：計画の中には 6 項目の目標値が設定されており、最終的にはそちらで図るということにはなるが、個別の目標値についても検討したい。

[会長]：必ずしも数値目標ではなくビジョンでもいい。具体的な数値で図れるものが望ましいがそれがふさわしくないときもある。ただ何かしらの目標がないとやっただけで終わってしまう。予算がないなかでできる範囲で実施をすると、最初に計画で設定した目標とどう接続するのかが見えにくくなる。令和 9・10 年度目標に合わせるために慌てて実施するというにならないようにするべき。他にご意見はあるか。

[事務局]：先ほど事務局から申し上げた 13 番「交流の場の設定」というところで、

予算がない中で何か実現できそうなアイデアがあればいただきたい。

[委 員]：これは市内の団体が交流するイメージか。

[事務局]：市内団体に加え、市外の人も来てもらえる場を設定して、そこで新しい出会い、新しい活動が生まれることが目的。著名人の講演会を開催し、その後に交流会を開催することで、参加者を集めるイメージ。

[委 員]：交流する主体は誰か。

[事務局]：市内外問わず近隣の市も含めた文化芸術に関わる人。異業種交流会に近い形態のイメージ。

[委 員]：開催にあたってテーマは必要。

[委 員]：やはり計画をつくったので、予算がないのはまず問題。現実的には、今あるものの組合せで開催するしかない。例えば文化協会のイベントの中で、交流のためのプログラムをつくるということでも良いのではないか。市の事業ではないが、ミリカルリーダーと連携する等、既にあるものの中に取り入れていく。あるいは、まち活とか、市内の地域づくりのイベントの中で社会教育課がブースを出し、そこに芸術関係の人も来てもらい、名刺交換ブースをつくるのもいい。他分野との連携という項目、例えば 24 番の関連する中間支援団体等との意見交換の実施を同時に行うというのもいい。異なる分野との連携が比較的容易にできるのは行政の強み。

[委 員]：目的は、交流自体なのか、上位の目的として文化芸術活動の担い手の育成支援という部分に含まれていてその一環なのか。

[事務局]：担い手育成支援の中の一つの項目として交流の場の設定がある。

[委 員]：椅子とテーブルと美味しいものがあれば交流の場はつくれるので、考え方次第。文化芸術に関わる人をミリカローデンや文化協会とつなげるだけでも意味がある。市民同士で顔は知っていても、長く話す時間はとれないので、その機会をつくるだけでも、そこで一緒に何かやってみようという話になったりするのではないか。著名な人を呼んで講座を受けた後に交流会というのも一つのスタイルだが、一緒にご飯を食べるだけでも交流の場として設定できるのでは。

[委 員]：市民文化祭の中で交流の場を設定するのもいい。

[委 員]：学校も一つの媒体として使ってほしい。学校現場でも子どもたちが選択することが重視されているので、複数の団体が学校に集って、子どもたちが内容を選べるようなイベントをして、その後、学校側でお菓子を出したり、謝礼を出したりということも考えられる。子どもたちにとっても担い手育成になっているし、担っている側の人たちの交流にもなるのでは。

[委 員]：予算がないなかで、すごくいいものができる、予算をつけなくていいのではという方向にならないよう気を付けてほしい。それをきっかけに、だから予算が必要ということをアピールして、芸術文化を担っている人にお金を回してほしい。那珂川の芸術文化を育てていくにはなく

てはならない部分なので、そこはぜひ頑張っていたきたい。

[会 長]: ミリカルリーダーは、「とびらプロジェクト」という、東京都美術館と東京芸大が一緒になって取り組んでいる人材育成プロジェクトがあるが、そのイメージに近い。

[委 員]: その通り。まず講座で啓発をして、その後参加者自身も考えてみることを少しずつはじめていく。

[会 長]: ミリカの中だけの活動か。

[委 員]: 場所は問わないが、現状はミリカで活動していることが多い。今後はミリカの外に飛び出した活動も検討中。

[会 長]: それはまさに文化芸術の担い手で、そういうことに取り組もうとしている人たちのコミュニティー。何年か継続されていると思うが、参加者の同窓会を実施したことはあるか。

[委 員]: 未実施だが、企画中。

[会 長]: まず講座を受けて、そこからその人たちが何か活動するときの中間の接続みたいなことはあるか。例えば同窓会で会って、久しぶりに、勉強会をする、イベントするといったような。

[委 員]: 定期的にフォローアップの講座を開いているため、希望者は相談に来られるのと、定期的にイベントをする際にお声掛けするという 2 パターンがある。

[委 員]: 実際に今年度、ミリカのグランドオープンイベントで、ミリカルリーダーの修了生が、それぞれにやりたいことを存分にやっている姿が見られた。受講生はたくさんいるが、修了した中で継続して活動しているのは半数程度。何年か経ってまた活動できるタイプの人もあると思うし、少しずつ流れができてきている。ミリカの職員もそのハンドリングをこれからどうしていこうか悩みながら進めているような印象。

[会 長]: 今までミリカの中で取り組んできたことを少し広げて、例えば、市の様々なセクションで、ミリカルリーダーになったからこそ、無償で貸出できる場をつくるなど、市が関わることによって、活動の幅が広がったり、優先的にホームページで紹介するなど、次のステップにつながるようなサポートができるといい。ミリカの周辺の文化資源とつながる場を提供したり、それをミリカルリーダーの人たちと一緒に話し合うような場を作ったり、市としても、しっかりとその人たちをバックアップし、そういう場をつくっていければ担い手育成につながるのでは。文化芸術団体等の交流が、少なからず文化協会の活性化にもつながると思う。文化協会そのものの広がりやそれ以外の人たちとの交流につながる企画もあるといい。先ほどのそれぞれの事業とのつながりをつくる、ということにも関係してくる。

## 5. その他

### (1) 次回審議会について



次回日程、報酬の支払い方法について連絡

[会 長]：以上をもって令和7年度第2回審議会を終了する。